

施策の項目	<b>(3) 生活や地域における課題解決のための学習機会の提供</b>							
方針・目標	① 家庭の教育力の向上を図る学習機会の提供 ② ボランティア活動の学習支援と活動促進 ③ 高齢化社会に即応した学習機会の提供 ④ コミュニティ活動の充実 ⑤ 異年齢・異世代交流活動の促進							
目標値	○自主学习グループ数 毎年 講座数×10%のグループ増加 ※学習機会の提供により、市民の自主学习活動につながる							
事務事業の 実 績	1. 開設講座・事業数							
	H20 40講座285回							
	H19 43講座317回							
	2. 平成20年度開催講座（地区公民館含む・数値は延べ数）							
		<b>分野</b>	<b>おもな事業内容</b>	<b>対象</b>	<b>実施回数</b>	<b>参加数</b>	<b>H19比数</b>	<b>参加率</b>
	家庭教育	親子体験活動	年長児と保護者	8	111組	19	77%	
	(幼児教育)	保護者の学習	保護者	12	691人	△277	—	
	少年教育	父子体験活動	小学生と保護者	1	31組	△6	97%	
		◆親子体験活動(地区限定)	小学生と保護者	8	105人	105	—	
		体験活動・異年齢交流	小学生3・4	8	178人	△27	85%	
		体験活動(地区限定)	地区小学生	25	387人	62	—	
	青年教育	ボランティア育成	高校生	15	147人	△47	—	
	成人教育	テーマに沿った課題学習	一般成人	14	209人	36	75%	
		集合学習(教養・趣味)	一般成人	109	1,415人	△81	83%	
	高齢者教育	集合学習	高齢者	57	2,874人	△582	43%	
世代間交流(高齢者育成)		高齢者	2	104人	42	—		
◆セカンドライフ講演会		団塊の世代	2	308人	308	—		
文化活動	公民館祭・文化祭	—	16	7,738人	483	—		
コミュニティ活動	世代間ボランティア活動	小学生～高齢者	5	55人	△25	—		
	地域づくり講演会・実習	一般成人	2	157人	60	—		
	◆世代間交流	小学生～高齢者	1	60人	60	—		
注) 表中の◆印は、新規事業です。								
3. 自主学习グループ支援								
		グループ数	人数	男	女			
H20		276団体	4,529人	1,286人	3,243人	H21.3.31		
H19		265団体	4,407人	1,263人	3,144人	H20.3.31		

点 検 評 価	<p> <input checked="" type="checkbox"/>目標を上回る      <input type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る  <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る </p> <p>[説明]</p> <p>○自主学习グループ増加数  H20 前年度比11団体増加  目標 40講座×10%=4団体</p> <p>○開設講座について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標に沿った内容を少しずつ取り入れている</li> <li>・講座ごとのアンケート結果によると、受講者からも好評であった</li> </ul>
課 題 及 び 今 後 の 取 組 の 方 向 性	<p> <input checked="" type="checkbox"/>拡充      <input type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他 (                      ) </p> <p>[具体的な課題及び取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ同士の連携を深める仕組みづくり</li> <li>・学習成果を地域づくりに活かす仕組みづくり</li> <li>・若い世代のニーズに即した講座開設等の検討</li> </ul>
学 識 経 験 者 等 の 意 見	<p>○ 公民館は、市民の多様な学習ニーズに応える総合的な教育施設です。公民館の役割は、「施設提供」と「主催事業」に大別されますが、点検評価が「目標を上回る」とされたことは、施設の利用率や主催事業の達成度が、主催者や学習者の両者にとって、十分に満足のものであったことがうかがわれます。</p> <p>また、主催事業の講座から独立立ちし、「自主学习グループ」として主体的に且つ継続的に活動しているグループも見受けられます。</p> <p>これは、主催者側が巧みに市民の学習意欲を刺激した成果の顕われとも受けとめることができます。</p> <p>○ ライフスタイルの中で、成長課題に応じた事業内容が取り上げられ、学習形態も「聞く」「読む」「話し合う」「表現する」「実践する」など、受講者にとって魅力的な学習になるような工夫も見られます。</p> <p>○ 主催事業も、参加者や市民の声を参考にしながら、そのニーズに応えるよう努力していますが、市民の要望がいつも顕在化するとは限りません。時には現代的な課題や情報発信のキー・ステーションとして市民を啓発する役割も期待されます。</p> <p>○ 市民の学習の方向性が多様化し、高度化してきている昨今、職員や公民館運営審議会の役割はますます大きくなってきています。</p> <p>地域や社会の動向や背景を考察し、その課題や問題点を把握する専門的知識や企画力センスの鋭さが求められています。</p> <p>例えば、「薬物乱用」や「さまざまな格差」などの学習も一例として考えられます。</p>

- また、「実践記録集」はどうなっているでしょうか。  
学習の結果を記録することは、ひとつの評価活動であり、学習内容を再吟味し、学習内容の改善につなげる意味は大きいと思われます。
- 市民にとって必要な公民館とはどんな公民館なのか、という視点を常に念頭において、あるべき姿を追究してください。
- 学習機会の提供が着実に行われており、評価できる。
- 目標値として、自主学習グループ数が掲げられているが、開設講座数・回数、参加者数、参加者満足度なども掲げられてよいように思える。また、「講座数×10%のグループ増加」が目標とされているが、講座数と、自主学習グループ数との関係がわかりにくい。
- 実績の欄の2で、開催講座の参加率が記載されているが、何を表す数字なのか、わかりにくい。講座の参加対象者の内、○%が参加したということだろうか。
- 実績の欄の3で「自主学習グループ支援」となっているが、どのような支援が行われているのかわからない。また、自主学習グループがどのようにカウントされているのか、実際に今も活動しているのかなど、実態がわかりにくい。自主学習グループの実態を調べるアンケート等の調査も必要なのではないだろうか。

施策の項目	(4) 芸術文化の振興と福祉の増進
方針・目標	①主催事業の企画実施 ②芸術文化活動の育成と参加の奨励 ③会館の効率的な利用
目標値	前年度実績との比較で、同等あるいは上回ること
事務事業の実績	<p>平成19年度実績</p> <p>①主催事業 7本（ピアノコンサート他） 入場者数：4,548人</p> <p>②市民芸術文化祭（会場提供）</p> <p>展示部門 15団体 入場者数：6,080人 舞台部門 17団体 入場者数：801人</p> <p>③ロビーコンサート（市民の自主開催で無料で会場を提供） 6回開催 入場者数：720人</p> <p>平成20年度実績</p> <p>①主催事業 7本（ミュージカル他） 入場者数：3,835人</p> <p>②市民芸術文化祭（会場提供）</p> <p>展示部門 13団体 入場者数：5,200人 舞台部門 15団体 入場者数：700人</p> <p>③ロビーコンサート（市民の自主開催で無料で会場を提供） 9回開催 入場者数：900人</p>

<p>点 検 評 価</p>	<p><input type="checkbox"/>目標を上回る      <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ目標どおり      <input type="checkbox"/>目標をやや下回る  <input type="checkbox"/>目標を大幅に下回る</p> <p>[説明]  主催事業は催物のジャンルに偏りがないよう計画し、2カ年とも7本実施したが、20年度実績は前年度を下回った。市民芸術祭への参加なども合わせ、景気の低迷が多少なりとも券売や団体活動に影響したものと考えられるが、一方で会館を気軽に利用したロビーコンサートは前年度を上回ったことから、総合的にほぼ目標どおりと評価した。</p>
<p>課 題 及 び  今後の取組の  方 向 性</p>	<p><input type="checkbox"/>拡充      <input checked="" type="checkbox"/>継続      <input type="checkbox"/>廃止検討      <input type="checkbox"/>その他 (      )</p> <p>[具体的な課題及び取組]  主催事業費の増加は厳しく、現状維持が予想されることから、各種助成制度を活用した事業の企画を推進し、また、ホームページなどあらゆる機会を通して利用促進を図る。</p>
<p>学識経験者等  の 意 見</p>	<p>○ 文化会館の運営面が芸文協に委託されましたが、以前に比べて施設の利用料が上がって利用しにくくなったとか、主催事業に質的低下が見られるという苦情は耳にしません。</p> <p>○ 昭和55年の設立当初は、まもなく利用者が激減し、閑古鳥が啼くのではないかと危惧されたものです。しかし市民や市当局の努力のおかげで、市民の文化活動の発表の場であると共に、芸術鑑賞の機会を多く提供し、芸術文化振興の拠点として存在感を高めてきました。</p> <p>○ 主催事業、貸館事業、他の施設との提携事業がバランスよく実施されています。</p> <p>○ 文化会館は、委託形態にありますので、比較的自律的に運営することのできる利点もありますが、時には予算運用が不透明になることもありますので、確かなチェック機能が必要になってきます。</p> <p>○ 文化活動には、大きな費用負担が伴います。しかし、それがどれだけ公共費用によって賄われるかが、市民の文化活動の活性化を左右します。</p> <p>芸文協に運営を委託するということは、財政的な効果に期待するというよりも、文化会館と芸術諸団体や市民とのよりよき関係を構築し、より質の高い文化活動の展開の可能性に期待するところにあります。利用率といった数値結果だけにとらわれずに、市民の芸術文化に対するニーズ・志向性を的確に把握し、質の高い芸術鑑賞プログラム等を提供して頂きたいと思います。</p> <p>○ 企業等において、それに関する講演会は催されていますが、市民の教養を高めるような講演会が、受益者負担になってもよろしいので、可能かどうか、併せてご検討頂けたら幸いです。</p>